



テレワークセンター 実証実験からの考察

2009年2月16日

国土交通省

報告の内容

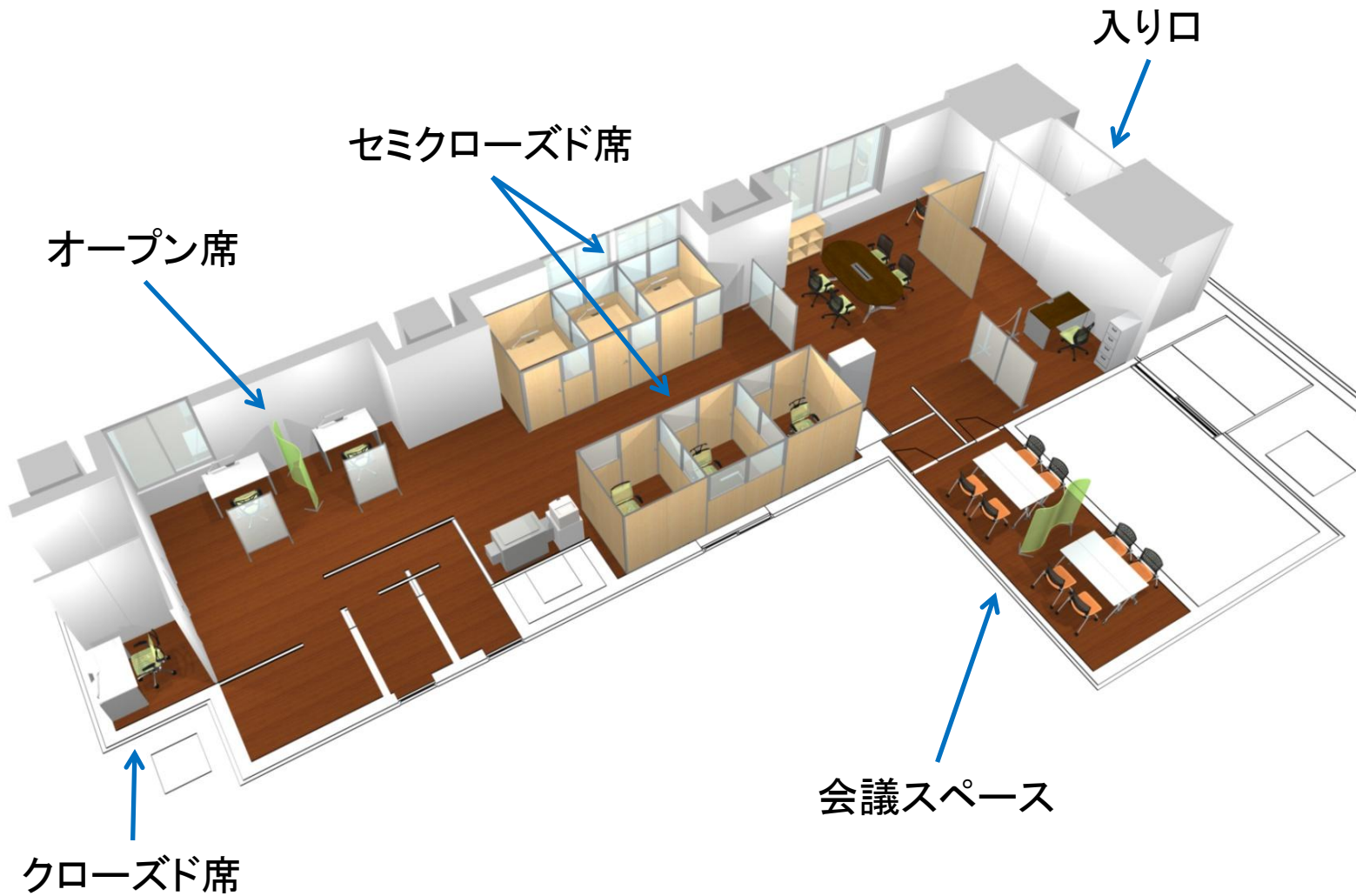
- ④ テレワークセンター実証実験の概要
- ④ 利用者のプロフィール
- ④ 利用の実態
- ④ 郊外型テレワークセンターに求められる要件
- ④ 今後の展開についての考察と検討課題

注：以下に示すデータについては、中間集計値であり、
最終の集計結果ではない。

テレワークセンター実証実験の概要

実験概要	平成20年度		平成19年度	
実験期間	2008年9月10日～2009年1月17日 合計99日		Y:2007年10月9日～2008年1月31日 89日 T:2007年10月15日～2008年1月31日 102日	
開設日数	平日(9～20時)		Y:平日(9～20時) T:毎日(9～21時)	
	土曜日(9～18時)		Y:土曜日(9～17時)	
設置場所	東急田園都市線あざみ野駅徒歩1分		Y:横浜(横浜市営地下鉄中川駅徒歩5分) T:鶴ヶ島(東上線若葉駅徒歩1分)	
面積	約55坪		T:約36坪 Y:5坪(個室スペースのみ)	
ワークスペース設定	クローズド	2室	Y:2室	T:2室
	セミクローズド	6室	Y:4室	
	オープン	2席	Y:丸テーブル4席 T:5席(ただしセミオープン)	
	会議室(8名迄)	1室	なし	
利用状況	利用企業数	137社	31社	
	実利用者数	330人		
	延べ利用者数	660人	331人	

テレワークセンターあざみ野レイアウト



テレワークセンターあざみ野



テレワークセンターあざみ野正面入り口



手前左右にセミクローズド席、億がクローズド席



左がクローズド席、右がオープン席



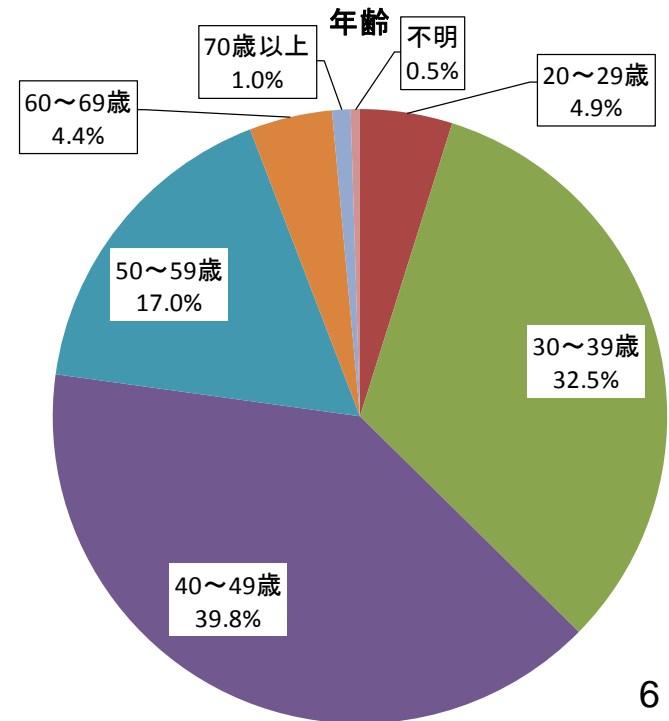
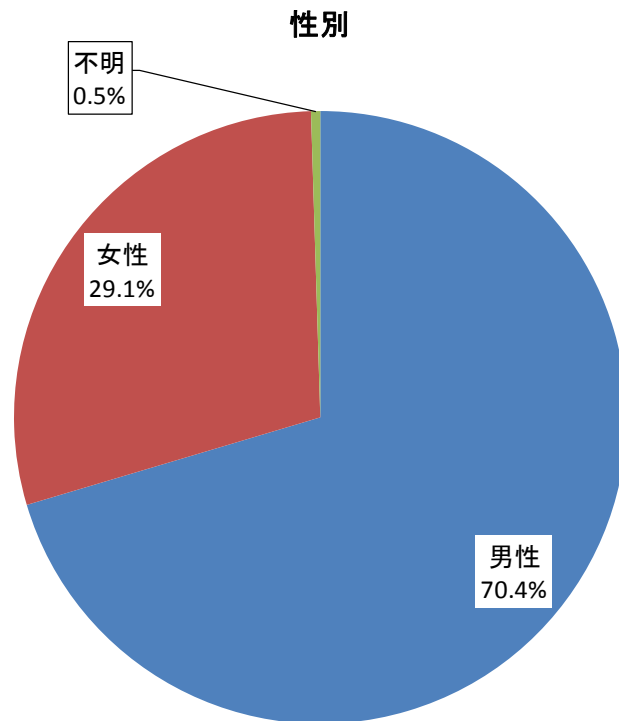
クローズド席

利用者のプロフィール(1)

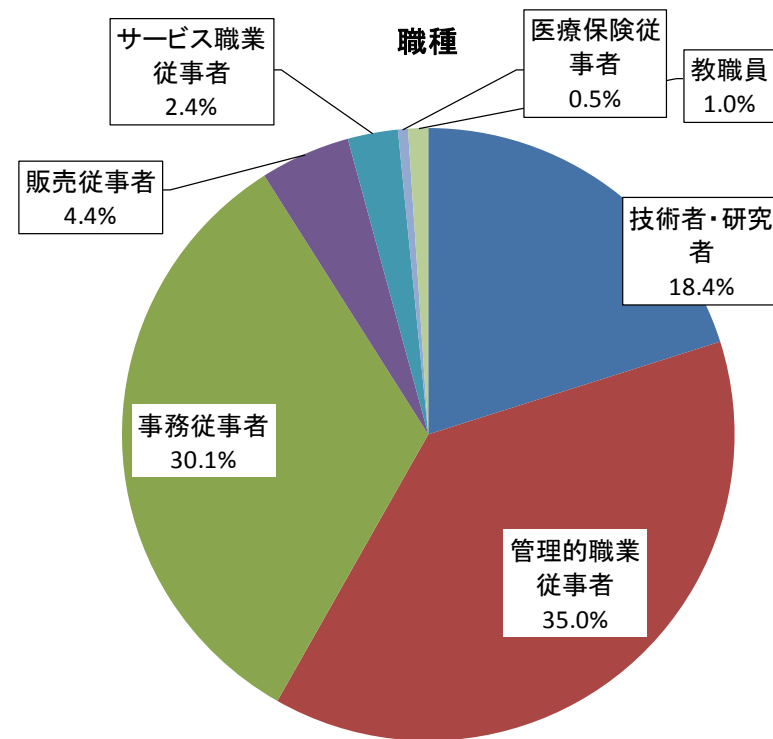
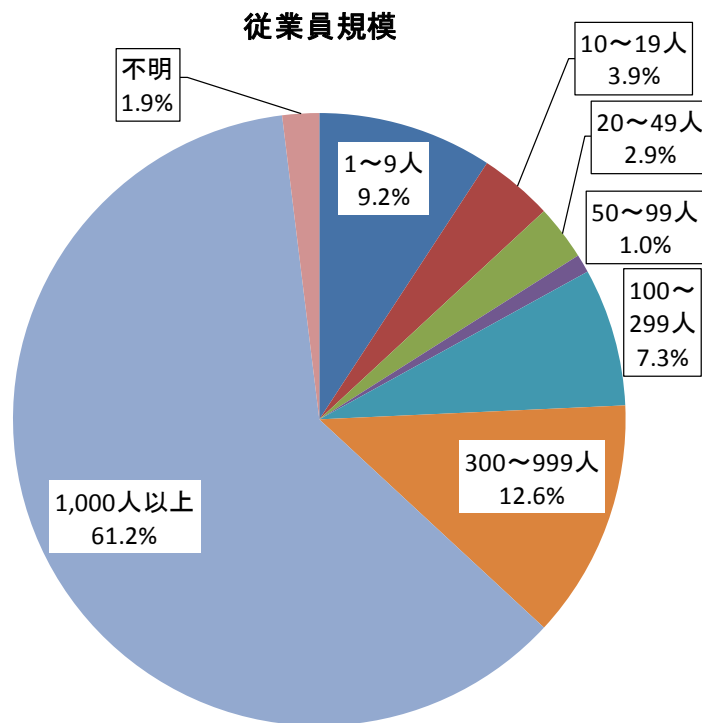
- 男性の利用者が70%
- 40歳代、30歳代で72%
- 1,000人以上の規模の企業に勤務している人が61%
- 管理職が35%



大企業の中堅社員

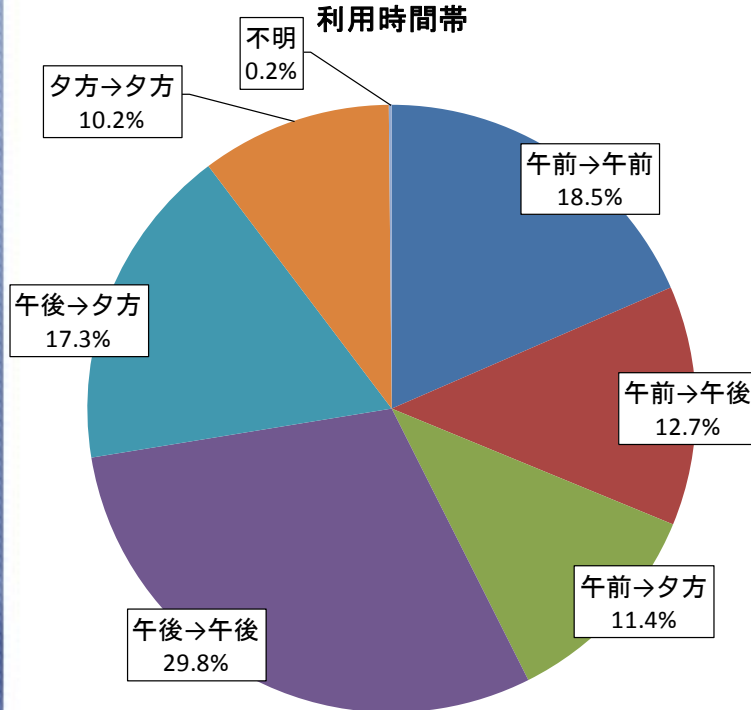


利用者のプロフィール(2)



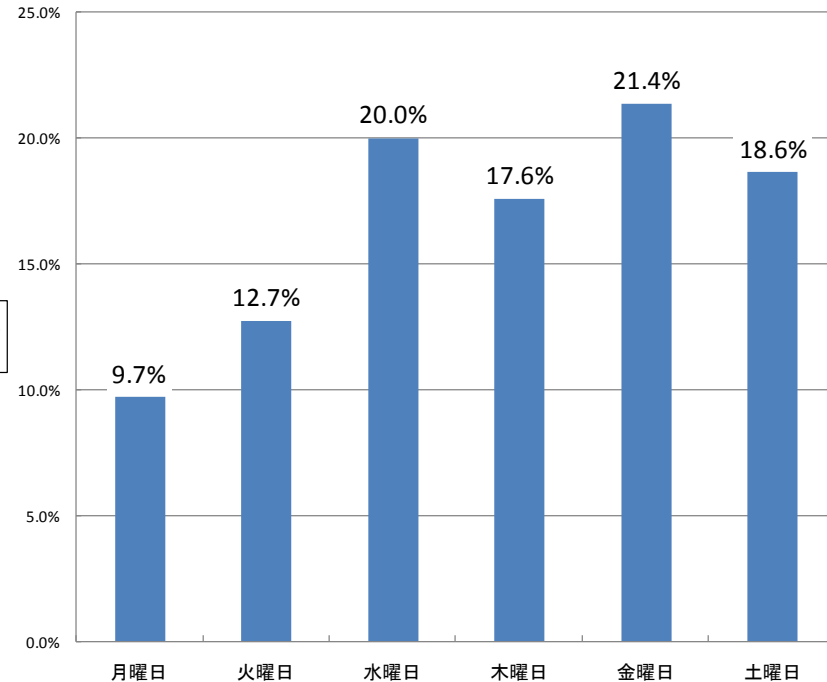
利用の実態(1)

- 午後の利用者が多い(午後・夕方にかかる利用者が大半)
- 平均利用時間は「午前→夕方」(6.8H)、「午前→午後」(5.5H)
- 週の前半は低調、水曜日から週末にかけての利用が多い



午前:9時→13時まで
午後:13時→17時まで
夕方:17時→20時(土曜日は18時)まで

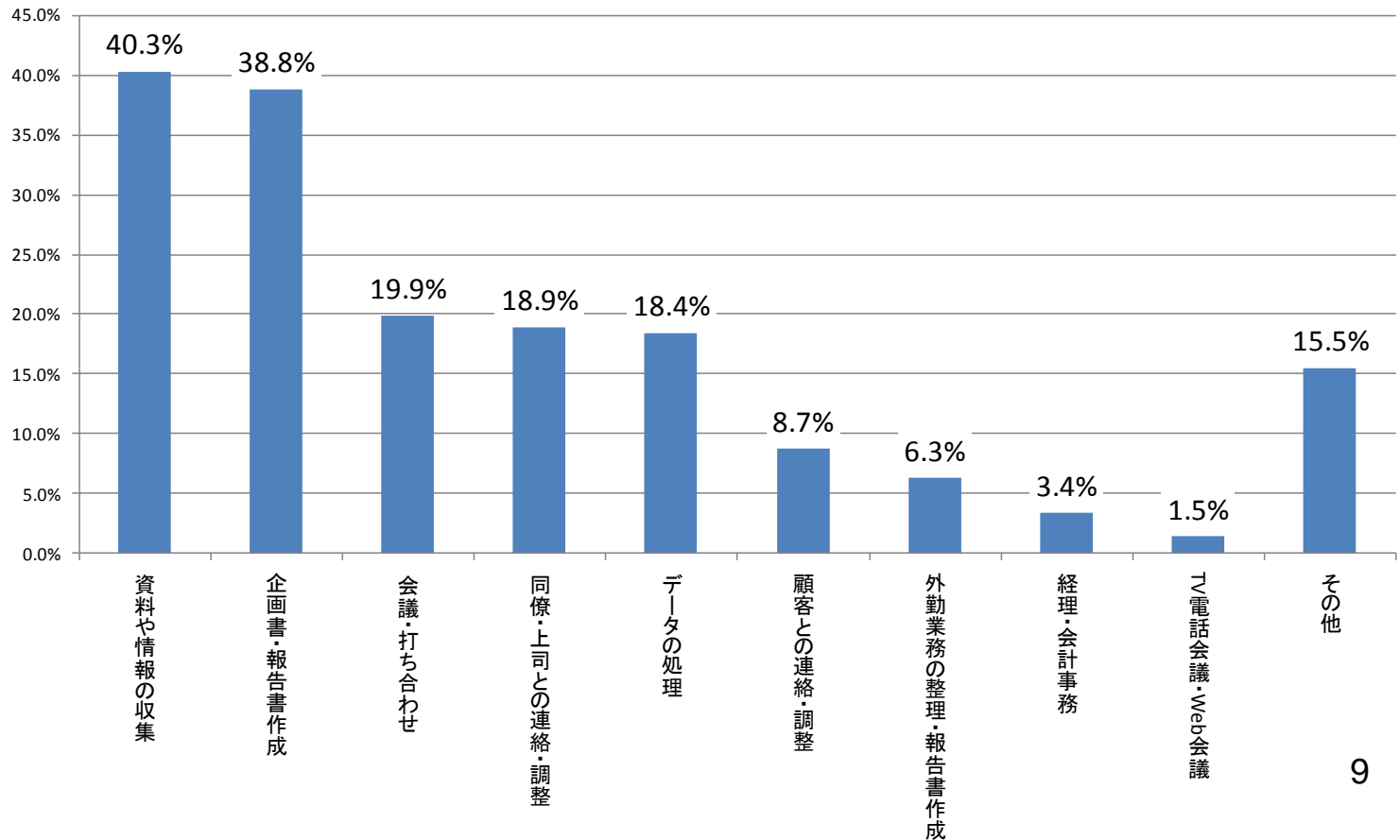
曜日ごとの利用割合



利用の実態(2)

- 情報収集と企画書・報告書の作成が多い
- 会社のオープンスペースではできない仕事に最適との自由回答もあり

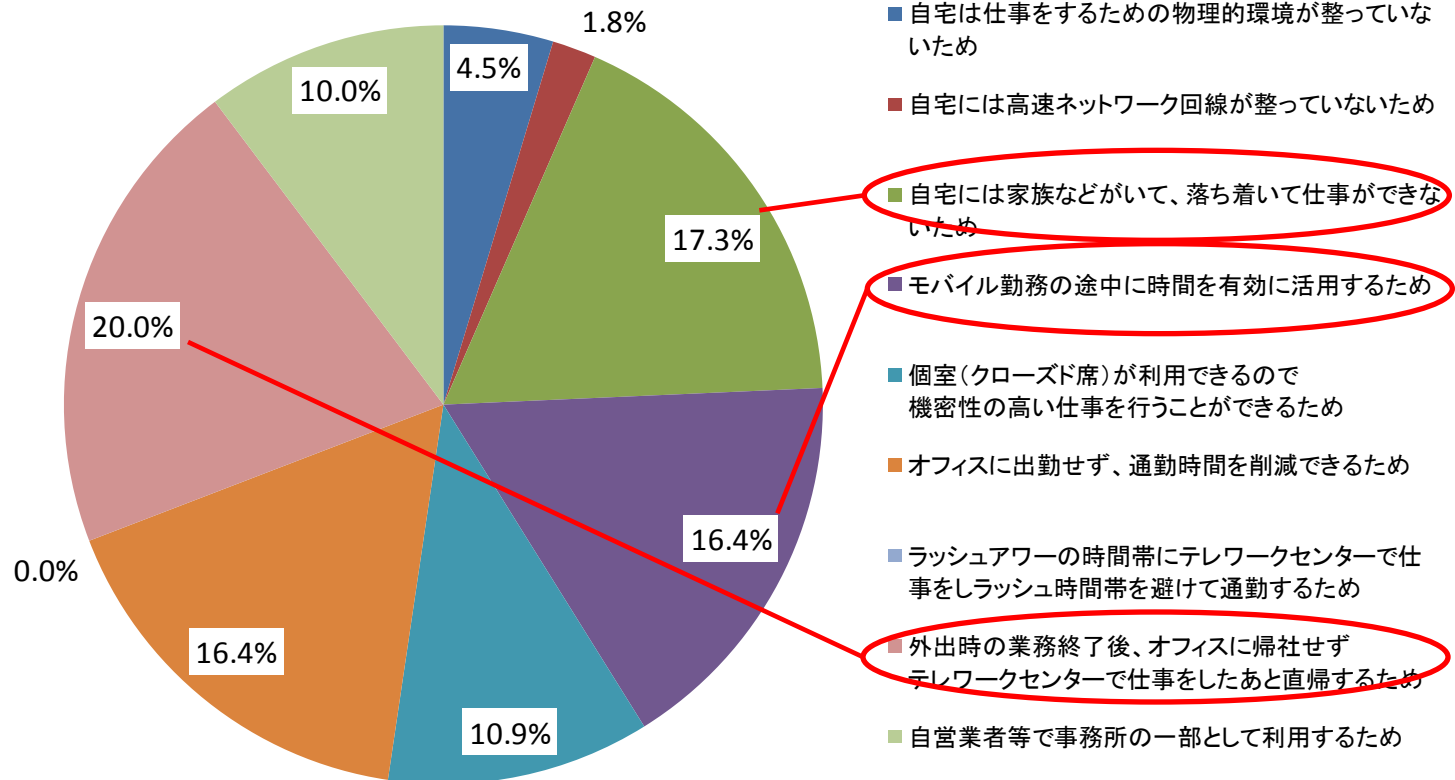
テレワークセンターで行った行った業務(複数回答)



利用の実態(3)

- 外出後の業務、その後直接帰宅(20%)
- 自宅の執務環境(17%)
- モバイルの途中に立ち寄り(16%)

テレワークセンターを利用した理由

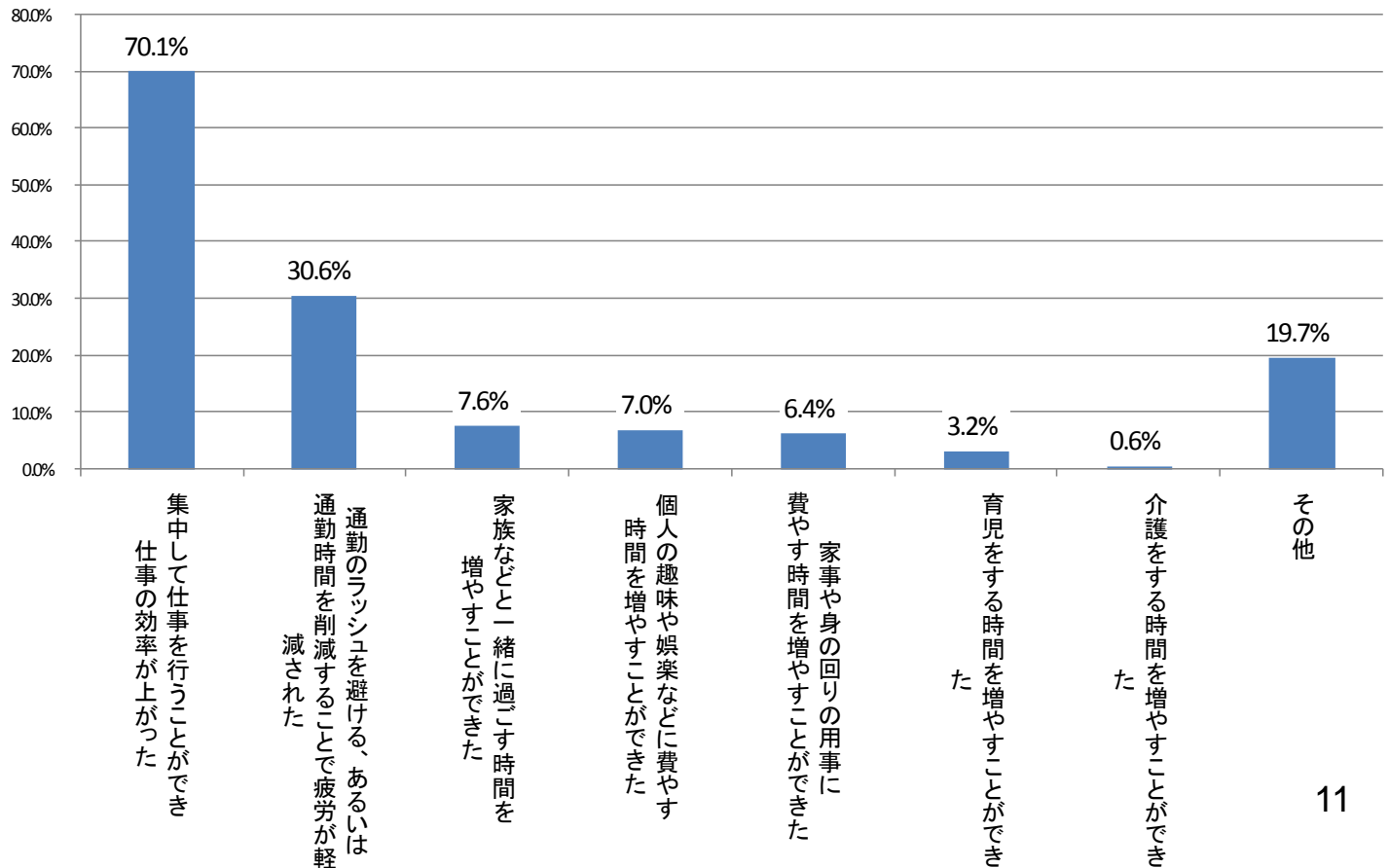


注:「その他」の回答を除いた合計値を元に集計

利用の実態(4)

- 業務の効率向上が70%と非常に高い
- 通勤・ラッシュの削減による疲労軽減も31%
- 家族、個人、家事、育児などは低いレベルにとどまった

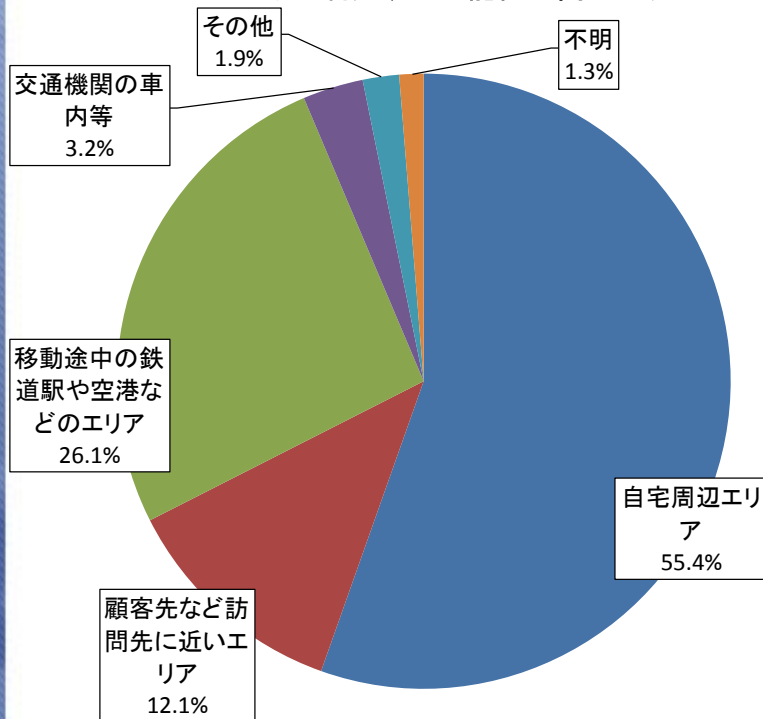
テレワークセンター勤務による効果(複数回答)



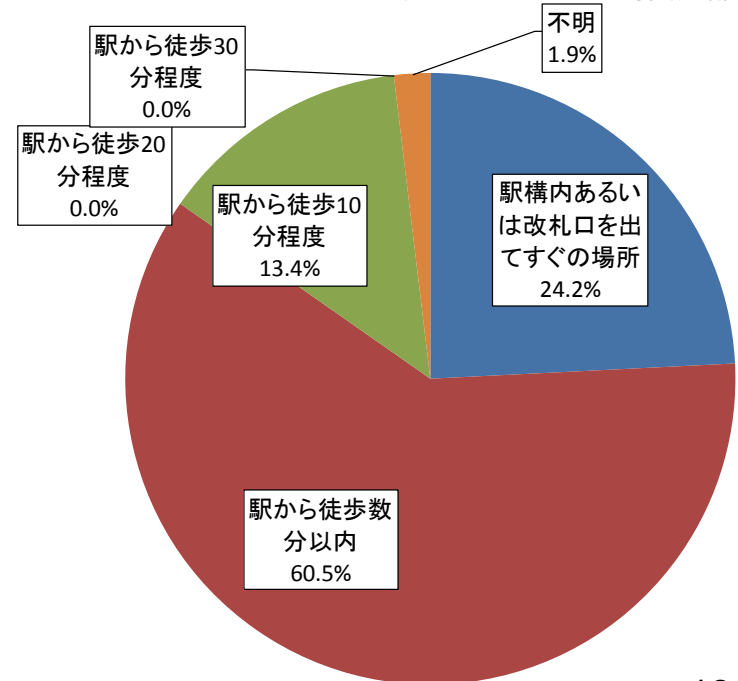
テレワークセンターの要件（立地）

- テレワークの際に利用可能性の高い施設のあるエリアとしては「自宅周辺」を希望する割合が高い(55%)
- 鉄道駅近辺のテレワークセンターを想定した場合の距離は、「徒歩数分以内」が条件(85%)

テレワークで利用する可能性の高いエリア



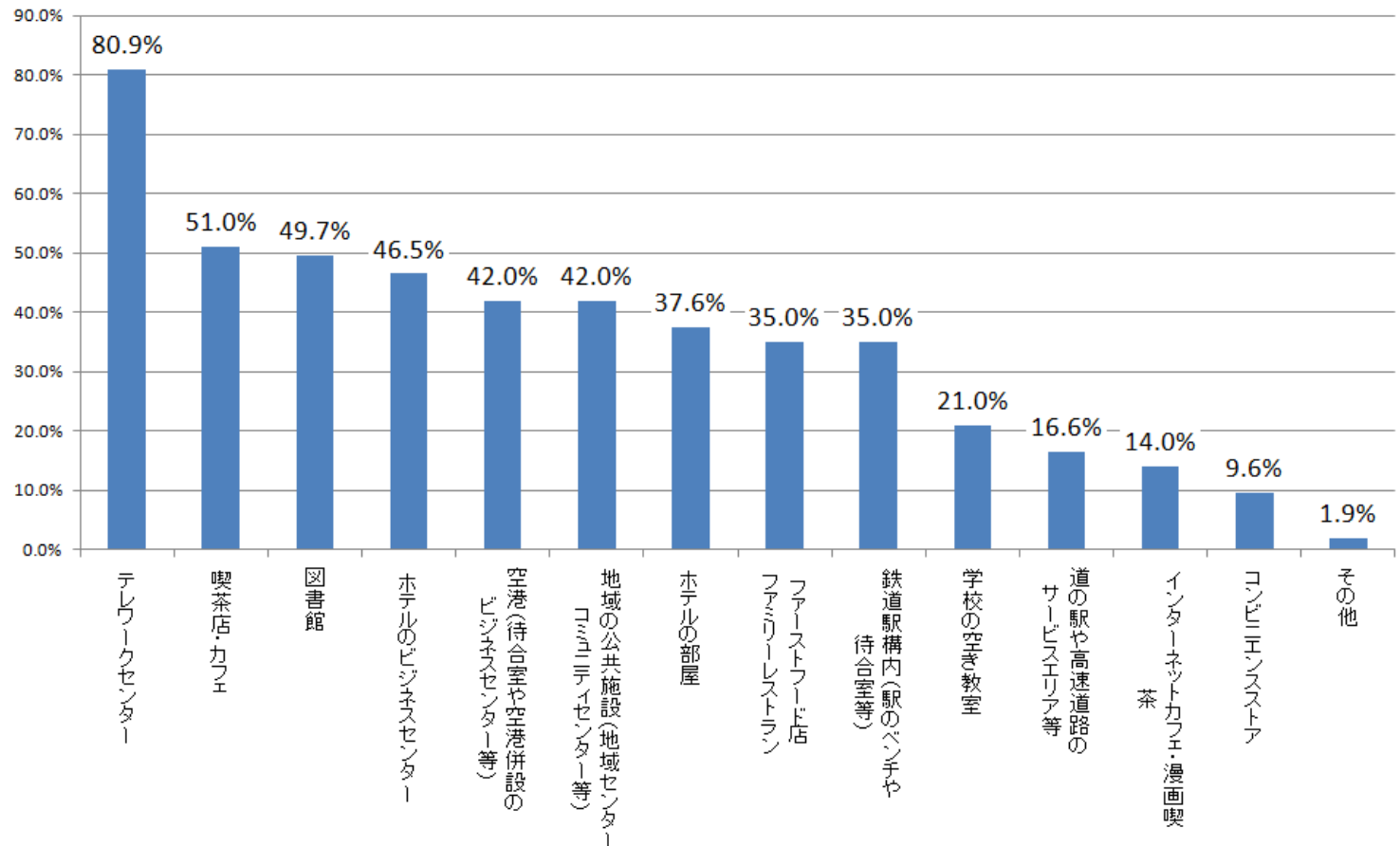
テレワークセンターの駅からの望ましい時間距離



テレワークセンターの要件（施設）

- 「テレワークセンター」を利用可能な人は81%
- 「喫茶店・カフェ」(51%)、「図書館」(50%)、「ホテルのビジネスセンター」(47%)、「空港」(42%)、「地域の公共施設」(42%)

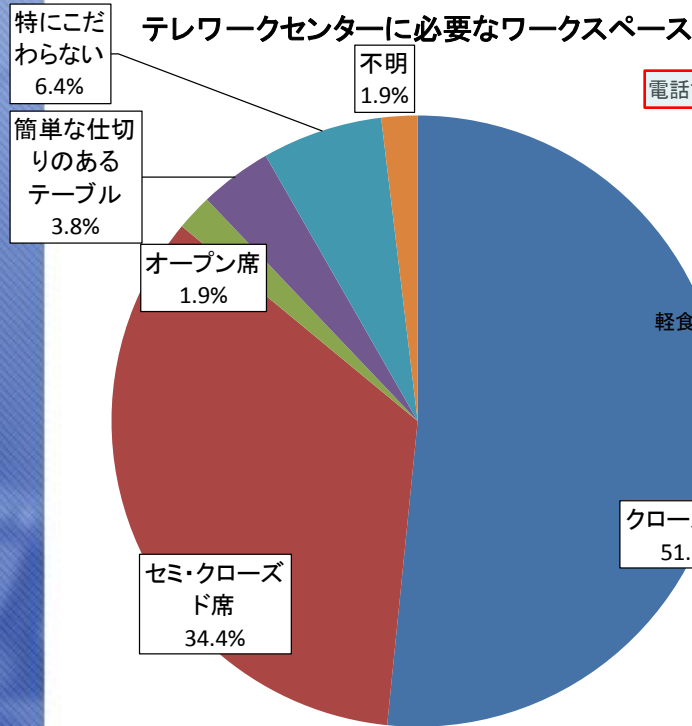
テレワーク時に利用可能な施設（複数回答）



テレワークセンターの要件（ワークスペース）

- 「クローズド」、「セミクローズド」が圧倒的（86%）
- 「快適な家具」、「電話の通話が可能なスペース」の必要性が高い

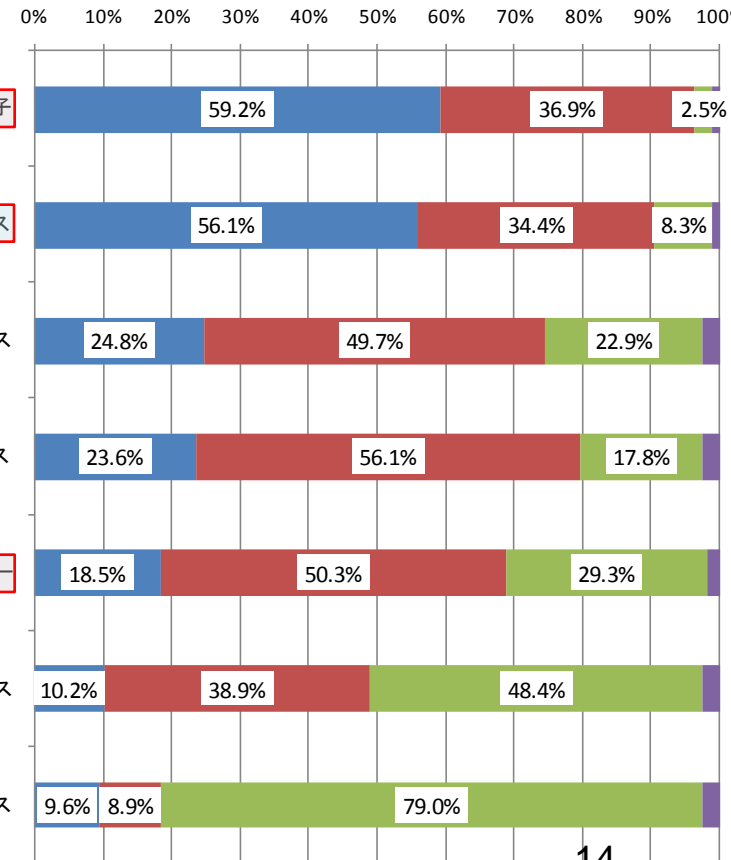
ワークスペースに必要な機能



快適性の高い机・椅子

電話での通話が可能なスペース

ロッカー



マークはあざみ野センターに設置した機能

必要である

どちらかといえばあった方がよい

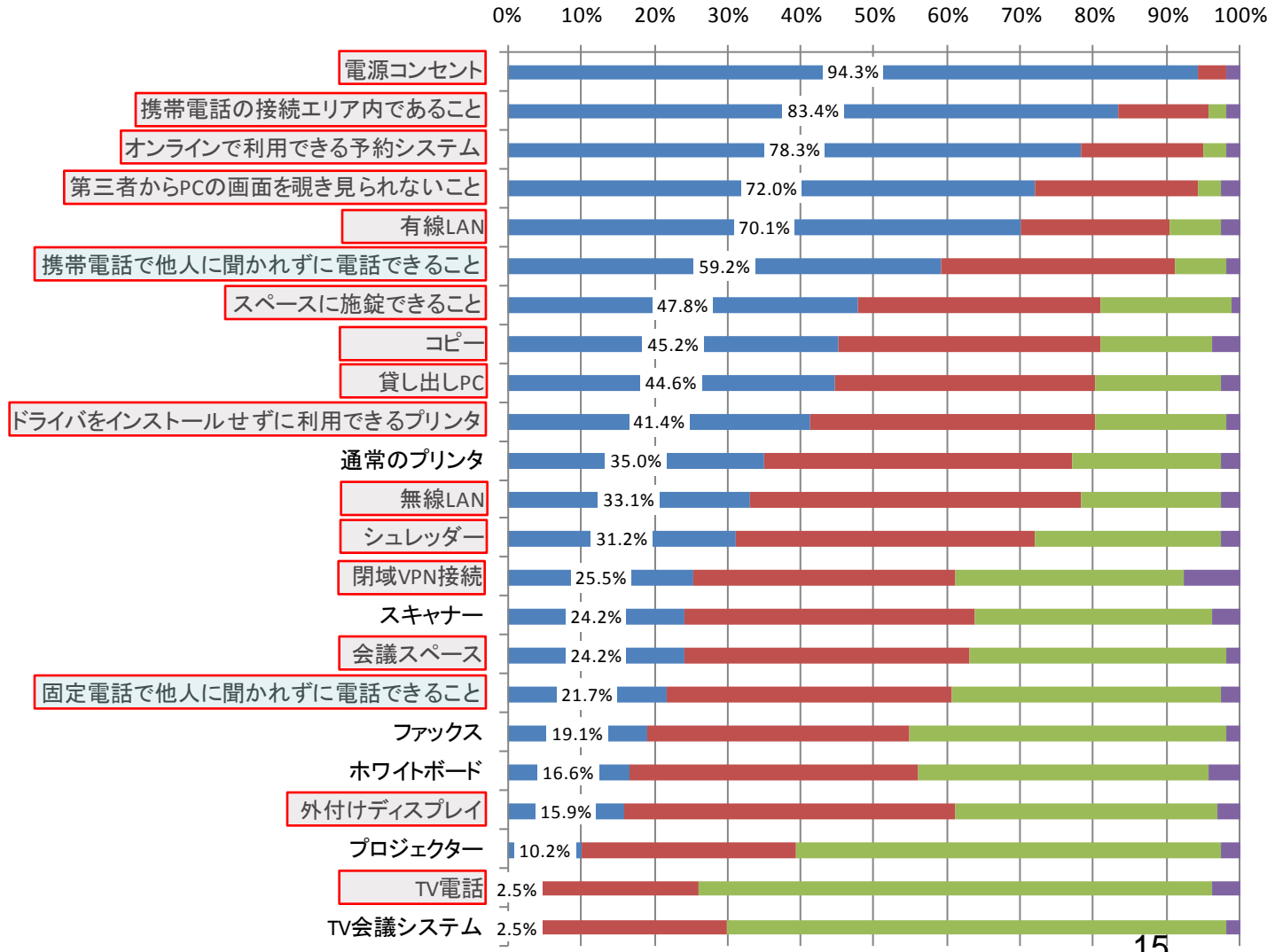
なくてもよい

不明

テレワークセンターの要件（機器や設備）

- 電源、LAN、施錠できるスペースは必須
- 電話の声が他人に聞こえない環境が必要
- オンラインの予約システムも必要

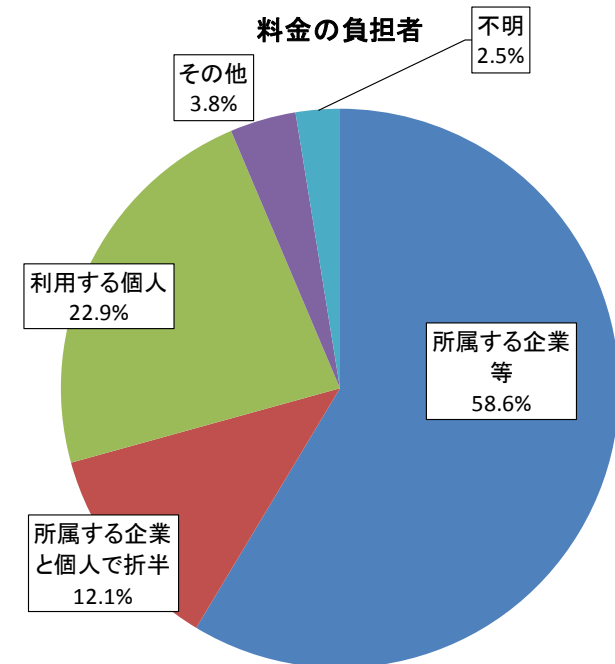
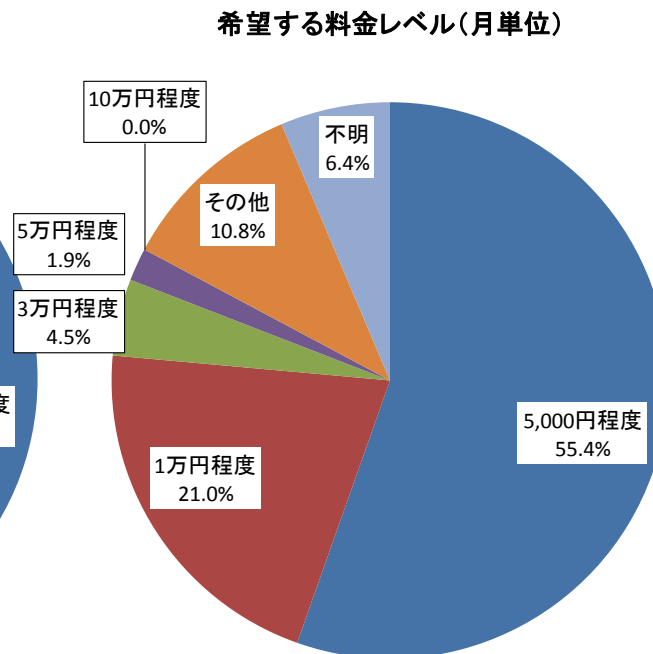
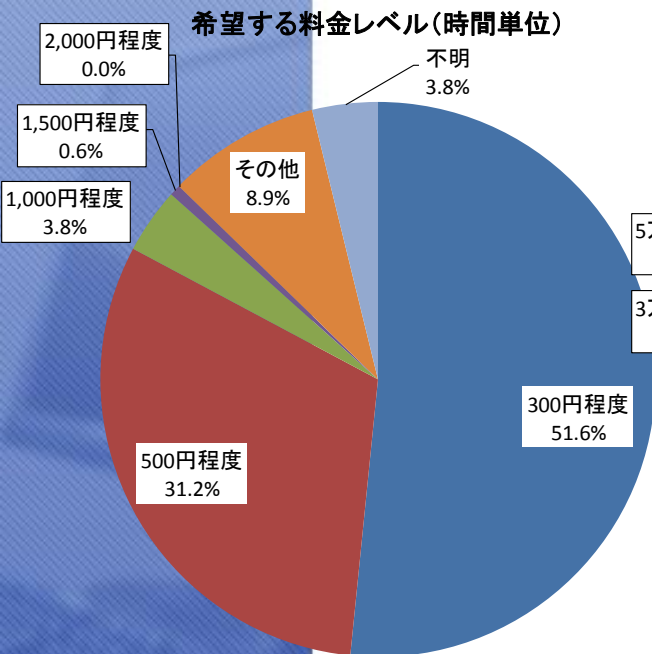
必要な機器や設備



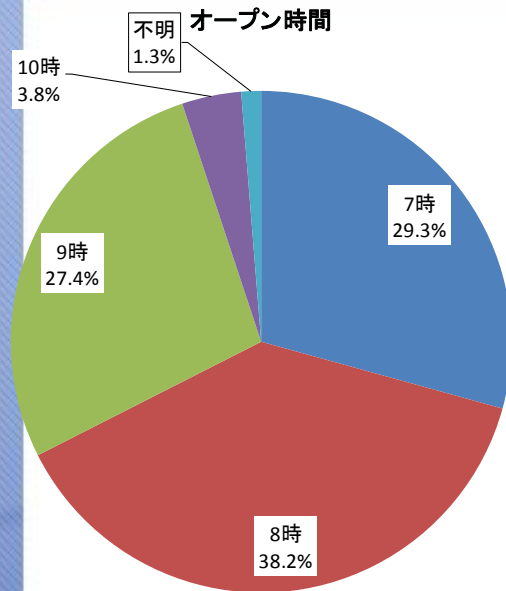
マークはあざみ野センターに設置した機能
 ■ 必要である
 ■ どちらかといえばあった方がよい
 ■ なくてもよい
 ■ 不明

テレワークセンターの要件(料金)

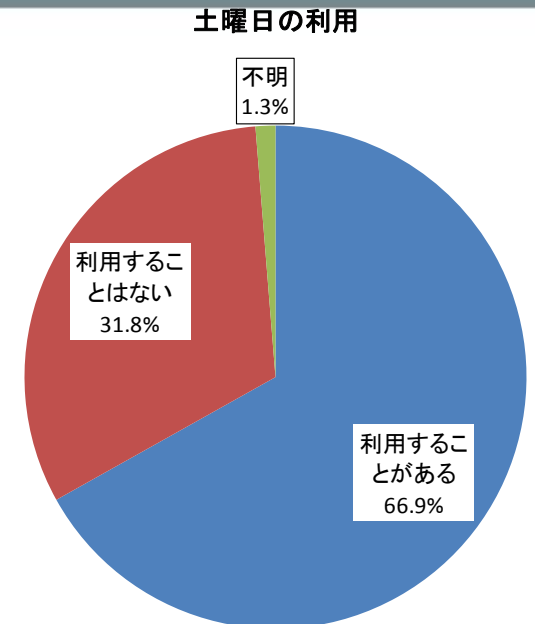
- 時間単位では「300～500円」(83%)
- 月単位では「5,000～10,000円」(76%)
- 企業の負担を望む声が多い(59%)



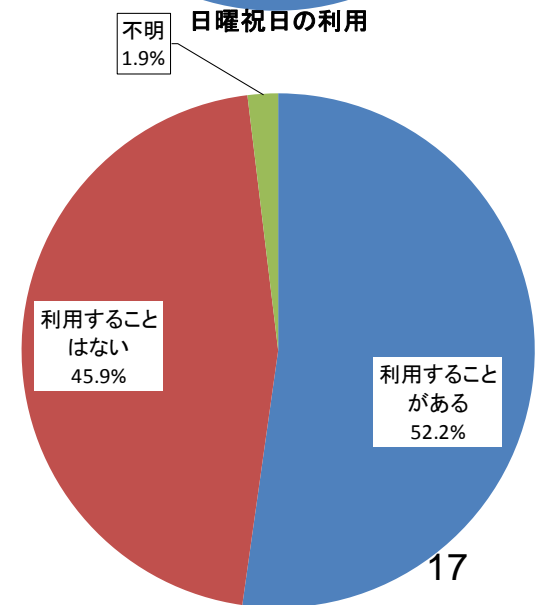
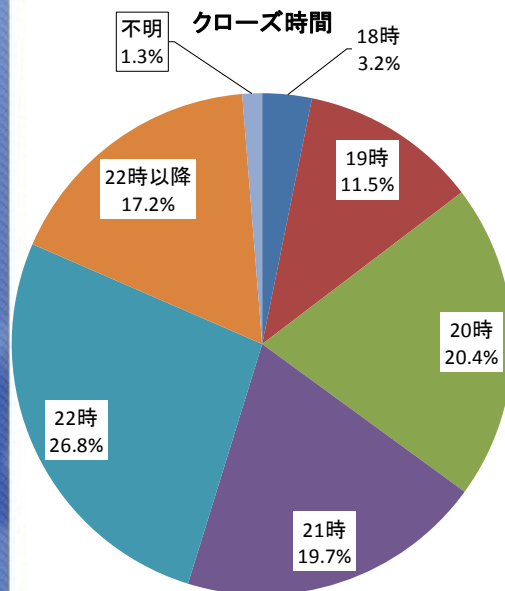
テレワークセンターの要件（運営）



- オープン時間については意見が分かれる
- クローズ時間は21時以降の希望が多い（あざみ野センターは平日20時、土曜日18時）

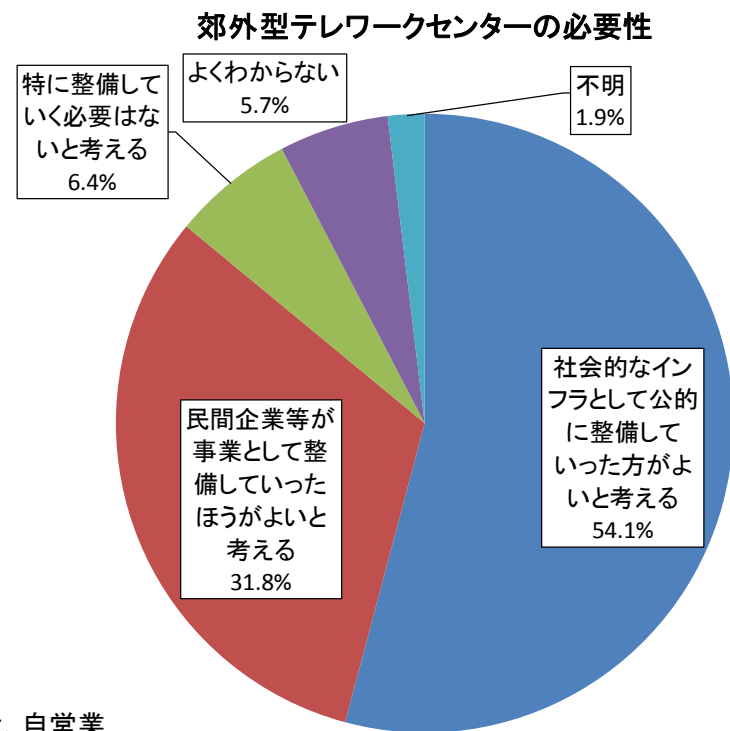
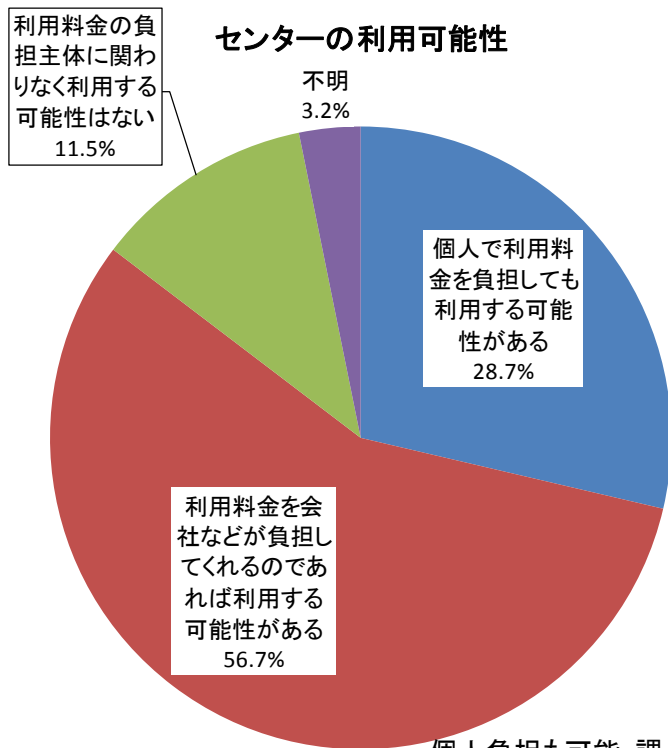


- 土曜日の利用希望は67%
- 日曜祝日の利用希望は52%



テレワークセンターの今後についての意向

- 「利用料金が会社負担であれば利用」が57%、「個人負担でも利用」が29%、ただし料金レベルによるとの意見
- 半数を超える人が「社会インフラとしての整備が好ましい」(54%)、「民間の事業として整備」も32%



個人負担も可能: 課長、経営者、自営業
 利用回数が多かった人
 自宅では落ち着いて仕事ができない人
 会社負担が希望: 担当者、主任/係長、課長
 利用可能性なし: 利用した理由が「その他」

利用者のみなさんから寄せられた意見(抜粋)

- ✦ ネットワーク環境や仕事スペースを自宅で確保できるのが理想だが、**自宅で集中できる環境を作るのは難しい**。また、土曜日にやっておきたい仕事があった時、会社までの通勤時間(往復2時間)を考えると自宅近くにテレワークセンターがあるのは大変助かるシステムだった。
- ✦ 在宅で仕事をしていくにあたっては、**設備を(プリンタ、ファックス、シュレッダー等)をそろえるのも大変**であり、また集中して仕事をするためにも、テレワークの様な施設が有効。
- ✦ 家事・育児・介護の負担がついて回ります。テレワークセンターは、通勤時間の削減だけではなく、仕事を集中して行うために非常に高い環境整備がなされており、特に**結婚など様々な環境の変化に悩みを抱えながらはたらく女性には、救世主ともなり得る**可能性を秘めていると感じました。
- ✦ 駅ビルや駅構内で気軽に利用出来るテレワークセンターが整備されたら素晴らしいことだと思う。そのためには**活用する側の企業が働き方について柔軟で前向きな姿勢になることが必要**だと思う。早くそのような時代が来ることを切望しています。
- ✦ 今回の実験に参加してみて、オフィス以外で業務が出来る便利さを感じました。また、機会があり、有料の場合には**金額面の折り合いが付けば是非利用したい**と思います。
- ✦ 通勤ラッシュなど、労働者が都心のオフィスへ通うことに対する問題が、多々噴出している現在では、こういったテレワークがより見直されていくのではないかと感じた。
- ✦ **図書館や公民館、市区町村の役所など、既にある公共施設の一部を間借りした形で**、テレワークセンターがあるとよい。案内するにも分かりやすく、ファミレスやネットカフェ等にと比べると集中できること、またセキュリティ面でも、就業場所として条件を満たす場合が多いのではないか。
- ✦ 郊外・都心型に関わらず、**公共施設でのテレワークを可能**にしてもらいたい。PC電源またモバイル通信が出来る環境が望まれる。
- ✦ 点での展開では投資効果が低い感じがします。よって**国のインフラ、自治体のインフラ**事業として、図書館、公民館など行政の施設の活用からその一角に設置するなどの検討が望ましい気がします。
- ✦ 企業にインフラ整備・運営コストの負担を義務づける。理由は、営利事業としては成り立ち難いので、**国家戦略として公的にインフラを整備する**のも悪くはない。

今後の展開についての考察と検討課題

⊕ 民間の事業としての展開

◆ 単独事業としての難しさ(料金レベルが課題)

- あざみ野センターの直接費と利用時間で試算すると 約3,800円(時間・人)、スペース効率を上げて約2,800円
- 民間のレンタルオフィス 約2,000円

⊕ 他施設との併設の可能性

◆ ワークスペースのセキュリティ確保が課題

- 図書館などの公的施設への併設(クローズド環境の実現性が課題)
- 厳しくなる企業のセキュリティポリシー

◆ 事前予約システムの利用可能性

⊕ 多様な施設が多数存在する状態の実現

◆ 多様な業務に対応した施設と設備機器

- メールチェックだけのちょい利用
- 外勤時の空き時間利用
- 集中して長時間利用など